



## 校長室だより №.11

### 第3回学校運営協議会より

白山市の全小学校で学校運営協議会制度（コミュニティスクール）がスタートして2年目。昨年度もお知らせしましたが、コミュニティスクールとは、学校と保護者や地域の皆さんとともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら、子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律に基づいた仕組みのことです。

さて、1月29日に今年度最後となる第3回学校運営協議会を開催し、委員の皆様に後期学校評価の結果や分析、今後の方策等についてお示しし、ご意見やご助言をいただきました。

また、今回は「今年度のふり返りと目標（※）実現に向けた令和7年度の取組」について話し合うワークショップを行いました。

（※）学校運営協議会目標

「もっと知って もっと大好き！」～学校は地域を元気に 地域は子どもを豊かにたくましく～

まず初めに、「今年度学校や地域で行われている子ども対象の行事や活動等」について、委員の皆さんで出し合いました。すると、白山まつりや区民運動会、田植えや稻刈り、水泳教室等、白峰では、地域の伝統文化に関わる行事や地域の行事、自然体験、地域スポーツ、農業体験等、子どもたちは実際に多くの行事や活動に積極的に参加していることがわかりました。多くの行事等において各種団体が協力し、子どもが参加できるような体制が既に整っている地域であることを再確認することができました。



次に、「現在行っている活動で学校と協働できうこと、改善のアイデア」について意見を出し合いました。まとめると以下の4点です。

- ①農業体験では、指導者ボランティアを募集し、一緒に活動したり収穫したものを一緒に食べる等、地域のお年寄りの協力を得ていく。
- ②地域スポーツである水泳やスキーに親しむために、取り組む時間の調整や場所を工夫し、取り組みやすい環境づくりを行う。少ない人数であるが、競技人口の維持をめざす。
- ③これらの活動を行うには、地域の人に活動内容や学校からの依頼事項等、もっと広く知ってもらいたいサポーターになってもらうことが不可欠である。そのためには、取り組む前のお知らせが必要であり、地域連携コーディネーター（学校運営委員会委員代表）の協力を得ながら、サポーターを募っていく。
- ④今年の夏休み等、子どもたちが参加する行事が週末ごとに行われていた。ゆっくりと親子でふれ合う時間も大切であり、スケジュールの調整が必要である。



ワークショップでは、学校や地域の行事、活動における内容や取組方法、互いの困り感（協力事項等）を確認することができました。また、それをもとに来年度以降の改善点やアイデアを共有することができ、非常に有意義な時間となりました。何よりも嬉しかったのは、常に子どもを中心に据え、「子どもたちのために」何ができるかを話し合っていただけたことです。「子どもたちのために」がしいては「地域のために」につながっていくのだと思います。

来年度以降も学校と保護者や地域の皆様で、今回のワークショップで確認されたことをもとに、さらに知恵を出し合い、協働しながら、子どもたちの豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」の推進に努めていきたいと考えています。

委員の皆様には、本校と子どもたちのために多くのご理解ご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。